

## ポジティブリスト制度施行により加速する JGAPの導入！！

去る4月27～28日、農業情報学会、JGAI (Japan Good Agricultural Initiative) 協会主催による「適正農業規範：GAP全国会議」が開催された。愈々日本でもGAPの導入が始まろうとしている。当日、EUREPGAP (ユーレップギャップ) の最高責任者クリスチャン・ムーラー博士の記念講演があり、JGAI協会とEUREPGAPと同等性認証の調印式が行われた。GAPは、Good Agricultural Practiceの頭文字を取ったものだが、直訳すると「良い農業のやり方」となるが、日本では「適正農業規範」と訳されている (JGAP = 日本版適正農業規範)。所謂、農産物生産の各段階で食品危害を最小限にする為に、生産者が守るべき生産工程の管理マニュアルとその実践基準である。農産物の安全、環境への配慮、生産者の安全と福祉、農場経営と販売管理に関する4つの視点から適切な農場管理のあり方についてまとめられている。

日本の農産物や食品は、BSE、無登録農薬の使用、輸入農産物の残留農薬問題等、食品の安全性をめぐる事件が多発し、更に産地表示偽装等で消費者の信頼を失ってきた。度々のJAS法の改正や、03年の農薬取締法の改正で、農薬の製造業者や販売業者のみならず使用者である農業生産者にまで規制の範囲が広げられ、罰則も強化された。そして、食品衛生法の改正で今年5月29日から農薬のポジティブリスト制度の導入が始まり、国産の農産物や輸入農産物の残留農薬のチェックが厳しくなる。

その為、農業生産現場において安全性確保の具体的な対策が必要とされていた。食品流通業界では、顔

(次ページ中段へ続く)

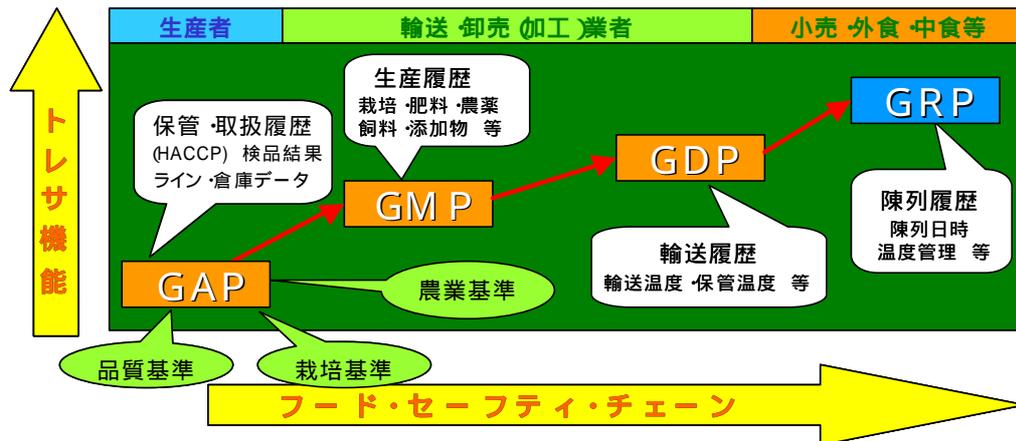
菱肥会ブロック交流会開催のご案内  
 来る6月14～15日、東京と筑波に於いてブロック交流会が開催されます。会員各位のご参加をお待ち申し上げます。

### 遠めがね

異業種との勉強会が富山県の大牧温泉で開催された。世界遺産の五箇山合掌集落に近く、荘川の水面にせり出すように立っているの、居ながらにして峡谷美が満喫できる。船でしかいけない秘境の湯で、昨今は、テレビのミステリー番組や秘湯番組でも紹介されている。富山県は、江戸時代では日本海に流れる日本有数の暴れ河、神通川、庄川に挟まれ、農家の長子までが家を継げない最貧地域であった。ところが現在では、最も暮らしやすい県としての評価を得ている。戦後、電源開発により数多くの水力発電所が建設され、農業の安定化、産業化が急速に進んだ。チューリップ球根出荷量、家庭配置薬、アルミサッシ・ドア、銅・銅合金の鋳物では、日本一を誇っている。富山県の農業・産業の発展に貢献したのが、富山の薬売りであった。立山山岳信仰にその由来があり、熊胆(ゆうたん)などの漢方薬を全国各地の信者に売り歩いた。300年も続いている、販売方法(得意先に薬を預けて、次に回ったときに飲んだ分だけの代金を集め、残った薬は新しいものに取り替える)は、「懸場帳」方式とも言われ、クレジットとリースを絡めた「先用後利」である。この「懸場帳」が、究極のデータベースと再評価されている。客先の名前、住所、配達した薬の銘柄、数量、前回までの消費量、集金高が明確に記載されており、この家は胃腸の弱い家系、肩こりの家系なども分かり、販売予測も可能なデータベースとして使われていた。この「懸場帳」は売買され、行商の退職金になった。売薬行商は、馬耕農法の全国的な普及、れんげの斡旋を通して東北地方の裏作、肥料栽培にも貢献した。肥料商として学ぶものは、多くある。(win)

(前ページより続く)

### GAPによる安全確保と流通の革新



の見える農産物や有機農産物、特別栽培農産物が普及し、トレーサビリティ(栽培履歴)のシステム化の確立が求められている。また消費者の信頼を取り戻そうとする試みとして、生協や一部の流通業者が独自の農産物の生産工程にお

ける管理マニュアルを作成し、生産者に遵守を要求している。世界的には、EUREPGAP(ユーレップギャップ)が標準モデルとして普及しているが、米国では国際標準化機構(ISO)の農産物生産工程管理ガイドライン作りが進んでいる。

欧州小売業団体(Euro-Retailer Produce Working Group)の提案から始まったEUREPGAPは世界で65ヶ国が採用し、中国でも03年からChina GAP(チャイナギャップ)の開発が始まり、EUREPGAPとの同等性に取り組んだ。今年5月からはC-GAPの国内審査と認証が始まる。早ければ、この秋にもC-GAP認証の農産物が輸入される(これは、EUREPGAPに準じた、中国版の安全が担保された農産物である)。農薬のポジティブリスト制度の導入で、少しは輸入農産物にブレーキがかかることを期待していた感があったが、そうはいかなくなった。日本の農産物も、安全・安心が強く消費者から望まれ、EUREPGAPの日本版が期待される。



## 自然に学ぶ !!

中南米の密林に生息するモルフォ蝶。『森の宝石』と呼ばれ、メタリックブルーに輝き、優雅にジャングルを舞う。モルフォ蝶に学ぶ新技術とは？

この蝶の翅をナノテクノロジーにより解析し、染料を使用することなく光で発色する機能を持たせた繊維が開発された。モルフォ蝶の秘密は、翅に無数に張り付いている鱗粉(りんぷん)の微細な構造にあった。鱗粉の表面に約80ナノ(十億分の一)メートルの細かい壁が多数あり、その壁が140ナノメートルの間隔を置いて規則正しく並ぶ。この構造により、鱗粉に照射された光の中でもブルーの波長だけを強め合って反射する仕組みになっており、この発色は構造色と呼ばれている。



光発色繊維 モルフォテックス

繊維メーカーは光の屈折率が異なるポリエステルとナイロンを交互に61層構造にすることでモルフォ蝶の鱗粉に似た光の反射性能の実現を試みた。ナノ単位で層を安定的に制御するのは困難を極めたが、合繊で長年培った高分子技術や製造技術に工夫を加え03年には量産化に成功した。染料による着色は、劣化により色落ちするが、構造色はその構造が壊れない限り鮮やかな色を保つことが出来る。自然の生態が生み出す神秘。この秘密を解析し、製品化する技術。おいに自然から学びたい! (MAC虫おじさん)

虫おじさんの標本箱より  
ブラジル産メネラウスモルフォ蝶

編集局長：吉野友隆 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp